ふかまちのまど

第一〇四号　〇三年〇一月一日
発行元　深町町内会連合会
連絡所　☎六三一三八八二

謹賀新年

深町町内会連合会
会長　梶谷　和伸

新年あけましておめでとうございます。

町内の皆様には、希望に満ちた平成十五年の新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年世界では、多くの出来事がありました。イラクによる大量破壊兵器の開発、保持疑惑により、国連による無条件査察が実施され、イラクの提出したその疑惑に関する「申告書」との真偽の解明がすすめられております。その結果によっては、米英等の国々によるイラク攻撃（戦争）開始の不安があります。

隣国中国では、八年続いた江沢民主席から胡錦涛総書記への政権移譲がありました。引続き（軍事大国）経済大国へ向っての発展は進み、日本経済は引続き圧迫されるものと思われます。

また北朝鮮における核兵器開発の動きは、益々深刻な事態となってきております。

一方国内でも昨年は、北朝鮮が日本人拉致を認めたことにより、改めて北朝鮮に対する不信感と不安感が（工作船、工作員の侵入と核兵器開発）強く日本全土を覆っています。日本政府の毅然たる対応を強く望むものであります。

また小泉内閣の構造改革は進捗せず、長期化したデフレ不況にも明るい光が見えず、政治的にも経済的にも明るい話題のない年でありましたが、小柴昌俊さんのノーベル物理学賞、田中耕一さんのノーベル化学賞のW受賞は、日本の研究レベルの高さを、改めて世界に示した明るい、喜ばしいことでした。

さて、町内会連合会では、町内の皆様方のご協力により十四年度の行事もほぼ終了することが出来ました。殊に八月の盆行事をはじめ、町民運動会、市民体育大会は多くの方々のご参加ご協力により盛大に実行致しました。

活力ある深町の第一歩は、町内会行事や集会への積極的参加・出席と意見の交換、そして決定されたことの実行であると思われます。（行事や集会は、町内の皆様方の親睦の会場であるとご認識下されればと思います）

今年も引続き、活力ある、よりよい地域となる様努めていきたいと思います。「私たちの町、この深町」をより愛して頂き、その表現として、今年もまた、町内会の各行事により多くの方々の積極的なご参加とご協力をお願い致します。

皆様のご健康とご活躍をお祈り致しまして新年のご挨拶と致します。▲▲

深小だより

―あけましておめでとうございます―

旧年中はお世話になりました。本年もよろしくお願いいたします。

一月十九日（日）に行います「新春ふれ合い広場」ではお世話になります。

今年度はとんどの組み立てを十八日（土）九時より行います。例年のように尚寿会の方々にご支援をお願いしておりますが、保護者の方・地域の方にもぜひお手伝いをお願いいたしたいと思います。よろしくお願いいたします。

新春ふれ合い広場について

一月十九日（日）十時～
深小学校

十時　・児童会行事
・太鼓踊り
・もちやき
※子どもたちがつくった餅をお配りいたします。
十一時　バザー

☀冷蔵庫のお礼☀

深町町民会館
館長　梶谷和伸

本誌十二月号にて町民会館への冷蔵庫の寄贈をお願い致しましたところ、早速に上組下成瀬講の成末叔正様より申出頂きまして、十二月七日備付け致しました。

成末様有難うございました。▲▲

尚寿会報告

会長　幸谷　満夫

一、ゲートボール
・第七回三原地区自由民主党広島県第六選挙区支部友の会ゲートボール大会に参加。
準優勝（十一月二九日開催）
・ゲートボール忘年会（十二月七日・町民会館）

二、忘年会
十二月五日実施。二十名参加。しまなみ海道経由、道後温泉・古湧園にて昼食、入浴。お菓子館とタオル美術館へ立ち寄り。▲

子ども会だより

ソフトボールの報告とお礼

ソフトボール
コーチ　小川　和彦

平素より町内の皆様には、子ども会の活動につきまして格別な御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年四月より始まりましたソフトボールの活動も十一月十日、第一回三原市長杯で第三位の成績を納め、昨年の日程を終了しました。

試合は準決勝まで勝ち進み、準決勝の対三原パワーズ戦は強豪チーム相手に一歩もひけをとらないプレイで善戦しましたが、最終回四点を先制され、〇対四で惜敗しました。

しかしこの試合、プレイしている子ども達と彼らの一投一打にベンチで声援している子ども達とが一枚岩となった、この年達は、気軽に最高の素晴らしい試合であり、堂々と胸のはれる三位でありました。

ソフトボールを通して学び得た何かを、次の新しいステージのステップとしてくれたら幸いです。

また、長年に渡り指揮を執ってくださった古川監督が昨年限りで勇退されました。長い間ありがとうございました。

新チームは屋敷新監督の下、選手十六名が一丸となって優勝目指して頑張ります。一緒にやってみようと思う友達は、気軽に練習を見に来て下さい。

最後に、昨年一年間、土・日曜日の練習、試合に声援して下さった皆様、遠征試合の折には車で送迎して下さった皆様、本当にありがとうございました。

これからも、子ども会ソフトボールチームにより一層の御支援と御声援をよろしくお願い致します。▲▲

キックベースボールの報告と感想

キック　迫　強介

昨年、キックの監督として一年間ご面倒のかけどうしで、まわりの人達には、大変お世話になりました。

四月から子供達と分からないなりに練習を重ねてきましたが、大目標であった公式戦での一勝は出来ずに終わってしまいました。

一年振り返りますと、「今年こそ一勝を!!」と意気込んで計画だけは立てたのですが、それが半分も消化することなく、もう少し子供達と試合について考えていければよかったかなと反省しています。

今年度もキックとはかかわって行くと思いますが、年ごとに私も少しは進歩してゆきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

最後に、昨年一年間お世話になったご家族の方々、子供会役員の皆様、町内会の皆様、そして練習、試合ですごく頑張った子ども達、大変ありがとうございました。▲▲

躍んでお悔やみ申し上げます

多津見和子様（南峠講）五〇歳
十一月十八日

深町各種団体一月行事予定

◆下組町内会
▼とんど祭準備作業　五日
▼総仏法要　十一日
▼とんど祭　十三日（十三時）（雨天　十八日）

◆尚寿会
▼新年会（健康ランド）　十六日

◆小学校・幼稚園
▼始業式　七日
▼PTA役員会　十四日
▼新春ふれあい広場　十九日
▼代休　二十日
▼冬季学園進学説明会　二一日
▼公開授業研究会　二一日

◆消防団
▼消防訓練　一日
▼消防出初式　十二日

◆女性会
▼親睦会　上中下　第三水曜　第二月曜

写真展「深の里」ご案内

今、サン・シイプラザ四階ホールで、深の自然や名所旧跡などを撮った石井静夫さん（上組）の写真展が開かれています。今までの写真の集大成です。ご覧になってください。

尚、展示は一月中の予定。

展望席

小春日和のある日、田舎の小さな遊園地で孫（一才余月）と遊んでいたところ、近くで遊んでいた、見知らぬ一人の少女が、やって来ました。

「こんにちは。この赤ちゃん何歳？わたしは（小学）二年生よ。わたしね赤ちゃんが大好きなんよ」と言って、孫を抱き上げたり、孫と一緒に砂遊びをしたりと、とても優しくいたわりながら、孫と仲良く無心に遊ぶ少女の姿に心うたれるものがありました。

二度とない人生だから
一輪の花にも
無限の愛を
そそいでゆこう
一羽の鳥の声にも
無心の耳を
かたむけていこう

二度とない人生だから
つゆくさのつゆにも
めぐりあいのふしぎを思い
足をとどめて
みつめてゆこう

坂村　真民

（この詩碑が市内東町の極楽寺にあります。）

一度だけの人生。この少女のように心温かく、健やかに子ども達が育ってくれることを念じ、無限の愛をそそいでゆこう。そして、なにげない小さなことにも感動を忘れない。そんな思いを強くした一日でした。

御調坂物語（最終回）

魚切と特産物

上組　石井　静夫

金剛寺から魚切の山裾にかけて、長閑な棚田が続いている。田になる所は空地を残さず、直角に石積をして荒地は全然なく、大小さまざまであるが整然とした田である。又、田の東西の山裾には、畑を作り果樹園となっている。

先祖が過酷な労働に耐えながら、粒々辛苦して一枚一枚耕したものだろう。当時の苦労が偲ばれる。そのような苦しい労働に裏打ちされた歴史のあかしを乗り越えたからこそ今があるのだと私は思う。

毎年この棚田の黄金色の稲穂を眺めながら、豊穣の秋を迎えるる。一稔ほどおり、一面広々とした見渡す限りの黄金色の田圃の風景にみとれる。

稲穂が少し垂れ下りかけた時、さやさやと微かにゆれる爽快さに心を打たれる。このような爽快さが、私には健康の良薬。

先人がどんなに苦労に苦労をかさねたであろうその努力と共に、御調坂の森、水、土など自然の恩恵に醸しだされていることを私たちは忘れてはならない。

魚切の由来についての古老の話では、ダムの上流に絶壁のような大きな岩場があり、これ以上魚が登ることができない、魚を絶つの意味で名付けられたという。現在では金剛寺一帯が正式な地名（魚切）になっている。

文政７年頃の金剛寺付近

主な生産物は、米、柿、桃で西条柿が重要な特産物となりつつある。

この西条柿は、遠く奈良朝の頃遣唐使によってもたらされたのがそもそもの発祥という。山野に散在している在来種を幾星霜に亘って改良し、その中から良系の選抜を繰り返してきた先祖数代に亘るたゆまざる努力が辛苦の結晶の西条柿を誕生させたものである。

この地域の伝統と由緒ある西条柿も、輸送の近代化によってすみやかに全国津々浦々に届けることができ、最近脚光を浴びるようになった。

自然の条件がよく、瀬戸内海ぞいの丘陵に当る内陸の谷間で、標高、気温、降水量、土壌（気候風土）の好条件に恵まれ、今日全国に風靡する産物となった。先人達のお蔭が身にしみるものがある。

深小時代の想い出(1)

「昭和三十年代」の巻

元深小学校長　坂井吉徳

深町の皆さん、明けましておめでとうございます。平成十五年（二〇〇三）をすがすがしい気持ちで、お迎えの事と拝察し、お慶び申し上げます。

元深小学校長の「坂井」といっても、新しく家を建てられた方も沢山おられるようなので、初めに自己紹介をいたします。

私は平成三年から二年間、深小学校長として就任し、多くの皆さんにご支援ご協力をいただいた者です。

深小学校に赴任してみると、大きな問題が二つありました。その問題の解決に努力した二年間であったように思います。

その話は別の日にお話しするとして、私は昭和三十年（一九五五）九月から四年半程、深小学校で主に高学年の児童を教えた経験があります。

その時の新米教師でしろ大学を出たばかりですから、やるべき事なりの事失敗ばかりで、校長先生には叱られるし、同僚の先生方を初め地域の皆さんにも、大変ご迷惑をおかけしました。

今思うと、冷や汗の出る思いがします。

このように、深小学校は二度目の学校で、色々なエピソードも沢山あり、想い出すままに書いてみたいと思います。

さて皆さん！「S三十系」という言葉をご存じですか？

私も、最近テレビで知った言葉ですが、S三十系とは、昭和三十年代の十年間をいうのだそうです。

昭和三十年代は、日本が著しい変化をとげた時代で、例えば、島倉千代子を初め、三橋美智也、三波春夫、石原裕次郎、橋幸夫、村田英雄と続々と大歌手が登場した時代です。

スタイルも、マンボスタイルに慎太郎刈り、ポニーテール、シャネルのスーツ、ポロシャツと、服装もびっくりするような変化・・・。

事件では、鷲浦沖で「北川丸」が沈没し、百十三人が死亡したのは昭和三十一年四月十二日でした。

又、世の中は神武景気に湧き、給料も毎年十％アップという夢のような時代でした。

昭和三十四年の皇太子のご成婚を境に、テレビが日本中に普及し、三十五年にはカラー化し、新幹線が走り、東京オリンピックが開催され、めまぐるしく変革が続いた時代でした。

私の初任給も七千八百円でしたが、半年したら八千四百円になりました。

こんな時代の深町は、三原市に合併し、「村」から「町」に変容していった時代でした。▲▲

高平の森が蓄えてくれ、徐々に流れ出る水で良質な米がとれる。三原（東町）の酒造場が栄えたのも、この米と竜王山の水であると言い伝えられている。

昨年は例年にない猛暑少雨で彭祖の滝も枯れ、米も心配されたが最高の良質米の出来栄で、百姓冥利にひたることができた。

年の瀬には餅を搗く。自分がこね女房が杵をもつ。ペッタンコ、ペッタンコ。呼吸があう。

最高のコンビネーション。

この一番の餅を仏壇と神棚に供え、先祖に報恩感謝する。暮れゆく大晦日の夕陽にも。

元旦には、裏山の寺と宮へ詣で、霊場奥の院でご来光を仰ぐ。爽快な気分で下山。神棚の餅を雑煮にしていただく。うまさ天下一品。元旦から最高の気分になる。

なんとなく今年もよいこと
あるごとし
元旦の朝晴れて風なし　（完）　啄木

長い間、「御調坂物語」をお読みいただき感謝いたします。お暇な時、ご家族やお友達と、自然と歴史の宝庫の御調坂散策へお出かけ下さい。▲▲

藤井川の仲間たち　その2

自然観察指導員　吉原和喜

前回、藤井川に生息する淡水魚のあらましについてお話しました。

今回は、淡水魚の呼び方についてお話します。

日本の淡水魚は、普通、三通りの呼び方で呼ばれます。「学名」「標準和名」「地方名」の三つです。

①学名とは、世界共通の呼び方で、ラテン語アルファベッドで綴られています。ただ、発音はいろいろで、英語圏の人は英語読みをする人が多いようです。

②標準和名とは、日本での一般的な呼び名です。図鑑などには、これで記載されています。日本語の標準語のようなものです。

標準語は、東京弁が基本ですが、淡水魚の標準和名は、琵琶湖付近での呼び名が基本となっている場合が多いです。

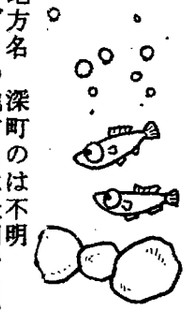
これは、琵琶湖が日本最大の淡水湖であり、多くの魚が生息していること、日本で初めての大学医科大学付属臨湖実験所が大津に開設されたことが影響しているものと思われます。

③地方名とは、その地域・地方で呼び慣わされた呼び名です。いわば方言です。地域の人の生活との関わりや、その生きものの生態の様子などを表現したものが、多く見られます。

私は、③の地方名に大変関心があります。例えば身近な魚メダカを例に考えてみます。

①学名　Oryzias Latipes
オリゾイアス・ラティペスと読みます。Oryzias はお米という意味。Latipes は広い足を持つという意味。まとめると、お米（田んぼ）とかかわりのある広い足（ひれ）を持っている魚という意味になります。世界共通の呼び名ですが、研究者以外には分かりにくいです。

②標準和名　メダカ
その由来は、「大きな目が上の方に向いてついているから目高（めだか）だ」などと諸説があるようです。日本国内ならだいたい通用する名前です。



③地方名　深町のは不明
メダカの地方名は全国で四〇〇〇を越えます。三原では沼田西町などで「かんこちょう」「かんろちょう」と呼ばれています。地方名の由来については、研究が進んでいません。

「新修深郷土誌」にはメダカの地方名は記載されていませんが、その一一Pに、キュウセン（ベラの仲間）の地方名「ギザミ」が載っています。

こうした地方名が今、ピンチに立たされています。それは使う人がいなくなりつつあるという大ピンチです。

私たちは地方名から、多くのことを学ぶことができます。総合的学習がうたわれる今、地域の財産である地方名の価値を、再検討したいですね。▲▲

お詫び

十二月一日発行の「ふかまちのまど」の印刷に不手際があったものを、一部の方に配付しましたことをお詫びします。

「九月十五・十六日心の時代」を聞いて

中組　坪見博文

徳島県出身の、矢野さんの話。現在香川県で「あすなろ（ボランティアの会）」の会長をされている。米寿を迎えての話。

大阪で商売をしていたが空襲ですべてを失い、ふるさとにもどり、香川でスーパーを創設され、さきごろ株式上場し、数億円の収入を得た。

今、経営のすべてを他人にまかせて、ボランテァ活動をしている。日本で不登校の生徒の支援。フィリピン、ラオスへ百五十万円で四教室の学校を建てた。

これまで、大病を数回、心臓にバルン治療。大病の時酒タバコをやめないと余命わずかと宣告されたが、やめたおかげで米寿を迎え、一日一日幸せな日を送っている。

他人のよろこびを見て、自分がそれ以上のよろこびをもらう。

このような話を聞いた。嬉しくなり眠れなくなった。希望のないこの世かと思っていたが、まだまだすばらしい人が活躍されていることを知り、大変元気がでた。▲▲